



NCJTA NEWSLETTER

北加日本語教師会

発行/編集 Northern California Japanese Teachers' Association

<http://www.ncjta.org/>

第29号・2008年 10月発行

北加日本語教師会 2008年の秋の例会

Saturday, November 8, 2008

University of California, Berkeley



会長の挨拶

新しい体験を通して異なる視点から物事を考える
南 雅彦

新年度、秋学期も始まり、北加日本語教師会 (NCJTA) 会員の皆様、諸先生方には、お忙しい毎日をお越しの事と存じます。私はサンフランシスコ州立大学 (SFSU) の外国語学部にも所属していますが、新学期早々開催された学部のパーティーでスペイン語プログラムに昨年から勤務している教職員に「夏休みは中国に帰省したの?」と尋ねられたり、見知らぬ学生に少しばかり親切にしてあげたら「謝謝 (シェシェ)」と言われたり、「そんなに中国人に見えるのかなあ」と思わず鏡をのぞきこんでしまう今日この頃です。

さて、話は過ぎますが、NCJTA会員の皆様は夏休みをどのようにお越しになりましたか。私は、ここ数年来、ほぼ一定のパターンで夏を過しています。春学期が終了し、卒業式を終えると、すぐ日本に帰省し、旧知の大学関係者の方々にお会いしたり、山積した私用・雑用をかたづける。時差のせいで朝とても早く目がさめた時には、書斎にこもって昔、若い頃 (高校生・大学生の頃) に読んだ本を再読し、知識の再確認をする。サンフランシスコに帰ってからは、研究室でおもに読書をして、静かだが知的に有益な時間を過ごし、教養・見識を深めるよう努力します。もちろん、毎夏、行なう内容はまったく同一ということではなく、少しずつですが異なります。通常、空港からレンタカーを使って移動するのですが、今回はホンダの3列シート7人乗りコンパクトミニバン「モビリオ」が空港で私を待っていました。それまでミニバンは一度も運転したことがなく、コンパクトミニバンとはい

え、異様に四角くて不均衡なくらい背が高いモビリオを見た途端、目が点になってしまい、言いようもなく不安な気持ちになりました。「今日はモビリオをご用意させていただきました」と微笑むレンタカー会社の従業員である若い女性に、私は硬直した表情を浮かべながら「ほかに何か車はないんですか!？」と思わず口走ってしまいました。ところが、いざ運転席に座ってみると視界がととても良く、楽しんで運転することができました。これはまったく卑近な例ですが、いつも決まって同じことの繰り返しでは時としてマンネリズムに陥ってしまい、自らをかき立てるものを見失ってしまいがちです。かりに不安を抱えることになっても、新しいことに挑戦することで次に自らがなすべきことを見つけられる場合があるのではないかと思います。

ここまで「帰省」という言葉を2度使用しましたが、皆さんはその都度、何か違和感を覚えられたでしょうか。もしくは、何の違和感もなく、ごくごく自然に読み進まれたでしょうか。最近、養老孟司氏が「帰省」という表現に言及しています (『アエラ』2008年8月11日号)。

「夏休は、やはり去年どおりに、向島の親の家で暮らした。その頃はまだ、書生が暑中に温泉や海浜へ行くということはなかった。親を帰省するのが精々であった。僕のような、判任官の子なんぞは、親の処に帰って遊んでいるより上の愉快を想像することは出来なかったのである」と森鷗外は明治末期 (明治42年から44年頃にかけて) に書いた『キタ・セクスアリス』の中に記しています。つまり「親元に帰省する」は、本来は正しい表現ではないのです。手元にある三省堂の『新明解国語辞典』によれば、帰省は「郷里に帰る (つて親の安否を尋ねる)」という意味ですから、森鷗外の表現が正しいでしょう。でも、この本来の正しい表現に逆に何かしら違和感を覚えてしまいませんか。養老氏は、最近の文化庁の国語世論調査にも言及し、多くの人が「無然=腹立て」と誤用していることにも触れていますが、「無然」は「失望してぼんやりしている様子」という本来の意味

よりは「腹を立てている様子」と捉えがちではないでしょうか。また「檄を飛ばす」は「自分の主張や考えを広く人々に知らせて同意を求める」という意味が本来は正しくても「元気の悪い者に刺激を与えて活気づけること」と解釈しがちなのではないのでしょうか。それにしても言葉は変化します。今回も日本でお会いした旧知の大学教授が「違くて」と連発されるので、それを指摘したい、何か言いたいという衝動を抑えがたかったのですが、目上の方というか、年長者に失礼な態度を取ってはいけないので、そこはぐっと我慢して微笑んでいました。

ところで、読書のほうは自分の専門とは異なる分野のものも読みますが、そうしたものは1時間半ないしは2時間くらいで一冊読み終えるという驚異的な超速読です。林真理子さんが書いた『RURIKO』は稀代の美女、浅丘ルリ子という女優を通して日活の黄金期、日本の映画産業の最盛期を描いています。この本に描かれている物語は昭和という時代をうかがい知ることができる文献としては傑作だと思いますが、速読本に属しています(2時間余りで読破しました)。一方、精読は上記のように言葉に関わるもの、とくにSFSUの大学院で指導している『社会言語学セミナー』と『第2言語習得セミナー』に関連したものにのぞくと興味が向いてしまいます。3月に開催したNCJTA春の例会では大阪大学の金水敏氏にお話をいただきましたが、2006年に新村出賞を受賞された金水氏の『日本語存在表現の歴史』(2006年 ひつじ書房)を、この夏は再度じっくり時間をかけて読みました。以前にも書きましたが、これは私自身が存在表現に興味を持っているからなのです。日本語の存在表現のなかで「いる・ある」がとりわけ重要であることは、日本語教育にたずさわっていらっしゃる皆さんは良くご存じだと思います。日本語学習者を対象とした教科書の説明によれば、「存在するものが人・動物のような生き物(有情)なのか、それとも無生物(非情)かで、どちらを選択するかを決定する」と要約されるのですが、この説明では必ずしも十分でないことも事実です。「いる」「ある」の使い分けと主語の生物・無生物に関する問題はときとして難しい問題で、「ある」が生物に、「いる」が無生物に使用される場合があります。たとえば、魚屋やスーパーなどで「いいアサリ・シジミ・カキがありますよ」などと言ったりしますし、ペットショップの広告には「ハト・カナリヤあります」などと書いてあります。逆に、タクシーの運転手と乗客の会話を想定してみましょう。「運転手さん、もっと急いでください!」と叫ぶ乗客に対して、「無理ですよ。後ろを見てください。パトカーがいるんです!」と運転手が答える場合です。「パトカーがあるんです!」とはどうして言わないのでしょうか。存在表現はなかなかやっかいです。どうしてこうなるのか、ご興味を持たれた方は私の大学院セミナーにいらっしゃるか、出版予定の本をごらんください。私の研究は「ああ、そういう言い方するよね」と共感を得るところから出発して、「へえ、なるほど」と新しいものを見つけてもらう、知的好奇心をかき立て、それを充足させることを目的としています。

さて、今秋も様々なイベントが目白押しです。昨年度からNCJTAも後援団体として参加していますが、北加日米会(Japanese American Association of Northern California: 略称JAANC)及び在サンフランシスコ日本国総領事館主催による第35回日本語弁論大会が、11月2日(日)に同総領事館広報文化センター(Japan Information Center, Consulate General of Japan, 50 Fremont Street, Suite 2200, San Francisco, CA 94105)において開催されます。今年も昨年同様、午前は中高校生の弁論大会、午後は大学・成人の弁論大会を開催する予定です。大学・成人及び中高生参加者の申し込み締め切り日は共に10月10日(金)午後5時必着です。日本語教育に携わっていらっしゃる先生方、継承言語としての日本語に興味をお持ちの皆さん、日本語弁論大会に日本語学習者がふるって参加されるよう御推薦ください。

11月8日(土)にはForeign Language Association of Northern California(略称FLANC)の年次発表会がUC Berkeleyで開催されます。この学会に関して、NCJTAの会員の皆様にはすばらしいお知らせがあります。NCJTA会員の皆様はNCJTAのほうに前もって\$20お支払いの上(payable to NCJTAです)事前登録していただきますと、FLANCのメンバーでなくてもFLANCにも終日参加できるようになりました。もちろんFLANCのメンバーになっていただければ日本語教育ばかりでなく外国語教育全般への視野も広がると思います。このNewsletterに申込書を添付しますので、ご記入の上\$20をそえて会計の斉藤先生までお送りください。FLANCでは、サンマテオのオデッセイ中学の校長先生であるMichael Smuin先生とNCJTAの役員でもある今瀬博先生が“Why Odyssey School Teaches Japanese?: Introducing Japanese Curriculum at Odyssey”と題して発表されます。中・高での日本語教育にご興味をお持ちの方には非常に有益であろうと期待しています。また、従来通り、NCJTA秋の例会は、午後3時からFLANCの午後のセッションの1つとして開催予定ですが、ネットワークキングの場としてご活用いただけるよう極力配慮いたしますので、どうかふるってご出席ください。例会ではUC Berkeleyの神原若枝先生が読解に関してお話していただきます。これは同じくUC Berkeleyの長谷川葉子先生と神原先生がJapanese Language and Literature (Journal of the Association of Teachers of Japanese)に最近ご発表になった“Literacy in the Foreign Language Curriculum: A Supplementary Grammar Course of Intermediate Japanese Instruction”に基づいたお話になると伺っております。中級レベルでの読解教授法として、皆様のご参考になると信じています。

最後に、12月7日(日)は習得した日本語の能力を客観的に測定しこれを公的に認定する制度である『日本語能力試験』がSFSUで実施されます。今年度からはアーカンソーでも能力試験が実施されることになり、全米で9ヶ所となりましたが、サンフランシスコは2番目もしくは3番目の規模で、昨年は約540名が受験しました。このように年々大規模になりますと、NCJTAの先生方にも試験監督をお願いするかと存じますが、その際はよろしくお願い申し上げます。このように今秋も様々なイベントを通して、NCJTAのさらなる発展と活性化のために、メンバ

一の皆様方と引き続き一緒に勉強させていただきたいと思っております。どうかよろしく願います。



2008年 秋の役員会報告：

日時：8月24日、日曜日、午後12時～3時

場所：82 Dwinelle Hall, UC Berkeley

出席者：南雅彦 齊藤真由美 高坂聖子 森岡妙子 郷司裕 モールス厚子 シアース多都美 神原若枝 増山和恵（記）

1. 日本語弁論大会プログラム

11月2日（日）に、サンフランシスコ日本総領事館広告文化センターで開催予定の日本語弁論大会プログラムに北加日本語教師会（NCJTA）を後援団体として加えることを承認しました。中高生の部の賞に関し、教育的見地・配慮から参加者全員に授与したほうが良いのではないかという意見が出ました。大学・成人の部に関する採点基準を公表してもらうよう、総領事館に要望しました。北加日米会が（NCJTAを通して）FLANCより\$300の寄付金を受理した。これは北加日米会が、NCJTAからのFLANC連絡員を通してFLANCから寄付金をいただいたという意味です。

2. 秋の例会（FLANC）11月8日（土）

UC Berkeleyにて開催されるFLANC Conferenceの参加登録費は、10名以上の事前登録があれば、FLANCのメンバーか否か、その有無にかかわらず、一律1人\$20となりました。当日、会場での参加登録費用は\$65なので、かなりの割引価格となります。FLANC Conferenceの発表セッションと例会の時間を確認しました。UC Berkeleyの神原先生に読解の指導の発表をしていただく了解を得ました。これは、ATJ Journalである *Japanese Language and Literature* のVolume 42, Number 1 (April 2008) に寄稿された *Literacy in the Foreign Language Curriculum: A Supplementary Grammar Course for Intermediate Japanese* に基づく発表です。また、領事館からの各報告、及び、9月19日に行われる日本語AP Conferenceに関するUpdateを増山が報告しました。

3. 日本語能力試験 (Japanese Language Proficiency Test)

12月7日（日）に開催。ポスター、パンフレットの配布。南先生より「年々受講者が増えているので、今年も、試験監督（作業力と責任感のある方）が必要であり、NCJTAメンバーの協力を得たい」との報告がありました。

4. 役員改選、補充の確認についての報告がありました。2008年度役員名簿の作成をすることになりました。

5. California Secretary of Stateに Filing fee (\$20) の支払済報告がありました。

6. FLANC ニュースレター

次の記事の候補：増山がAP Japanese Conferenceに関する記事を書くことになりました。

AP Conferenceの報告：

増山和恵

カレッジ・ボード主催AP Japanese Language and Culture Teachers' Conference が日本国際交流基金からの補助金を受け、9月21日にロサンゼルス市のJapanese American Cultural and Community Centerで行われました。当日は50～60名の高校、大学、日本語補習校の先生方が参加されました。会議では、AP Development Committee members (Mieko Avello, Kazue Masuyama, Kimie Matsumoto, Sufumi So, Motoko Tabuse)、Chief Reader (Laurel Rod), and Educational Testing Service Specialist (David Baum)が、下記の7項目 - What is the AP Japanese Course?; Exam Format; Exam Delivery and Administration; Course Audit (syllabus development); Professional development opportunities; AP Central (and other) resources; and Exam Results - についてまず簡単に発表し、その後、トピックごとの小セッションを行いました。

まず、Chief Readerより、昨年度、AP Examを受けた受講生数は1,667名でしたが、今年はこちらを下げたという報告がありました。しかし、Standards Group（日本に一ヶ月以上滞在したことの無い学習者）の受講者が増え、その中でGrade 3, 4, 5を取った学習者数も増えたことは好ましい傾向であるという報告でした。AP Centralのウェブページには2008年試験項目（フリーレスポンスのみ）が既に掲載されていますが、2009年からは、フリーレスポンスの試験項目が8項目から4項目になったという報告がありました（ライティング項目は”Text Chat”と”Compare and Contrast Article”、スピーキング項目は”Conversation”と”Cultural Perspective Presentation”のみ）。また、College Comparative Studyの報告、様々なリソースページの紹介等など、参加者の様々なニーズにあったセッションが行われました。

最後の全体質疑応答セッションでは、昨年カリフォルニアの補習校に通っている学生が残念ながら受講出来なかったという報告があり、来年はなるべくそういった学生がAP Examを受け入れられるように協力し合おうということで会議を終えました。また、当日の参加者にはAP Japanese Language and Culture Workshop Handbook 2008-2009と2008年の受講者の回答例のCDが渡されました。これらはAP Centralのウェブページに掲載される予定です。AP Centralのウェブページは以下の通り：
http://apcentral.collegeboard.com/apc/public/courses/teachers_corner/3722



言葉の窓

「どういたしまして」の窓から見える景色

クラレンドン小学校
郷司裕

「ありがとう」——いい言葉です。私の勤めているサンフランシスコ市立クラレンドン小学校の日本語プログラムでも、4~5才の新入生が初めに覚える日本語の一つです。「ありがとう」をもらったら、お返しは何でしょう？ 「いいえ、そんな、とんでもない」という謙虚な気持ちも、「こちらこそ、ありがとう」という感謝の気持ちも、どちらも素敵なお返しの言葉です。では、「どういたしまして」は？

「どういたしまして」は感謝の意を表された時に、気を遣わなくてよい意思を伝える機能を持つ感動詞です。細かく見てみると「どう（どのように、何を）」+「いたす（「する」の謙譲語）」+「ます（丁寧語を造る助動詞）」+「て（反問的用法の終助詞）」となっています。

「何をしたというわけでもありませんよ（だから、気になさらないでください）」という意味を持つ、前述の「いいえ、そんな、とんでもない」に似た謙遜の言葉です。

この「どういたしまして」、知っているけどあまり使わないという人が多いのではないのでしょうか？ どの日本語の教科書でも「ありがとう（ございます）」は最初の方で紹介されますが、「どういたしまして」はあまりお目にかかりません。ということは、「どういたしまして」は教えなくてもいいのでしょうか？

「ありがとう」を教える機会はたくさんあります。子どもたちが何かいいことをした時に先生から一言「ありがとう」いわゆるインプットです。こんな機会は無限にあります。また、保護者や地域のボランティアの方がクラスにお手伝いに来てくれた時は、子どもたちに「ありがとう」を言わせることもできます。「言わせる」というのはよくないですね。子どもたちには「言わなければいけないから言う」のではなく、「言いたいから言う」ようになってほしいものです。その点、子どもたちが「ありがとう」と自然に言いたくなる環境を整えてあげるのはそう難しいことではないでしょう。では、「どういたしまして」を教える機会は毎日の学校生活の中でどこにあるのでしょうか？ 子どもたちが「どういたしまして」を言いたくなる環境はどうやって作ればいいのでしょうか？ いや、その前に、そもそもそこまで考えたことがありますか？ 私はありませんでした。ある絵本を読むまでは。

1950年代後半から70年代中頃にかけて、主に子ども向けの本のイラストレーターとして活躍したルイス・スロ

ボドキンさんの初期の作品に「ありがとう どういたしまして」という絵本があります。（偕成社1969渡辺茂男訳、原題“Thank You, You're Welcome”, Random House Children's Books 1957）このお話の主人公ジミーくんはいつでも忘れずに「ありがとう」を言えるとてもいい子。でも、そんなジミーくんが、ある日「ありがとう」って言わなくなりました。なぜって？ それは「どういたしまして」って言うてみたくなかったから……。そんなジミーにお母さんが「他の人に親切にしてあげるとみんなが『ありがとう。』って言うからジミーは『どういたしまして。』って言えばいいのよ」と教えてくれました。ジミーはパパに帽子を取ってあげたり、おばあちゃんにお花をあげたり……。するとみんな「ありがとう」って言うてくれるので、ジミーは「どういたしまして」って言うことができるんです。——

この本を3年生と一緒に読んだ時に、子どもたちが「私たちも、『どういたしまして。』を言ってみよう」と言い出しました。そこで、その場でもう一度絵本をたどりながら、「どういたしまして」の箇所を子どもたちと一緒に読ませて簡単なドリルをしました。それだけでした。ところが、その日の放課後、その担任の先生から「『どういたしまして。』をもっと練習したいから、何かいいアクティビティがないか一緒に考えて」と頼まれました。この時、初めて「どういたしまして」を教えることを考えました。どうすれば、子どもたちが自然と「どういたしまして」を言いたくなるような環境を作ることができるかを先生と一緒に考えました。そこで二人で思いついたのは、まず、一日の終わりにみんなでその日あった「ありがとう」を交換し合うこと。例えば「〇〇ちゃんと〇〇ちゃん、昼休み一緒に遊んでくれてありがとう」「みんな、図工の時間、手伝ってくれてありがとう」のようにその日あった小さな「ありがとう」を伝えます。これは英語でもいいことにしました。（もちろん、最後に日本語で「ありがとう」は言います。）そして「ありがとう」をもらった本人は「どういたしまして」でお返しします。これなら、「どういたしまして」は能動的に出てきます。

早速、次の日から実践してみました。「どういたしまして」はちょっと長くて言いにくいですが。それでも、ただだどしい「どういたしまして」でも、子どもたちは何度も練習していました。だって、「ありがとう」をもらったから。そしてその相手にお返しをしたいから。言わなければいけないからではなくて。それから、もう一つ副作用が出てきました。子どもたちが「ありがとう」を言ってもらえるように心がけるようになりました。「ありがとう」がもらえれば、「どういたしまして」が言えるからです。このアクティビティは数年前のこの時から始まって、今も毎日続いています。

「ありがとう」を言えることは幸せです。その言葉の窓からは自分に宛てられたたくさんの贈りものを見ることが出来ますから。でも、きっと、それと同じくらいに「どういたしまして」を言えることも幸せなことでしょう。「どういたしまして」の窓からは、誰かの微笑んでいる景色が見えて、その笑顔は自分の思いやりと行動が

作り出したものだと感じることができるのですから。
 「自分からきちんと、ありがとう。を言える子どもに育てたい」という言葉をよく耳にします。同感です。それに加えて、「どういたしまして。を素直に言える心を子どもの中に育む」ことの大切さを、私はクラレンドン小学校の子どもたちと先生たちから教えてもらいました。
 「どういたしまして」言いたいという気持ち、そしてそのために行動する子どもたちを誇りに思いますし、また、そのような感覚を子どもたちの心の中に育てていこうとする先生たちと一緒に仕事ができるのは幸せです。
 「どういたしまして」——何よりも子どもたちの周りの自分たち大人から口に出して言いたいと努めている昨今です。



会計からのお知らせ

NCJTAの会費は一般15ドル、学生5ドルです。2008年度分の会費(2008年4月から2009年3月まで有効)をまだお支払いでない方は、年会費納入用紙といっしょに送ってくださるか、秋の例会でお支払いいただければと思います。NCJTAの収入は会費に頼っています。皆様のご協力をお願いいたします。

(会計：斎藤)



イベントのお知らせ

FLANCのお知らせ

- Foreign Language Association of Northern California (FLANC)
 - 日時：11月8日(土)
 - 場所：University of California, Berkeley (Dwinelle Hall)

| | |
|--------------------------|-------------------------|
| Registration: | 8:30 a.m. – 9:00 a.m. |
| 1 st Session: | 9:00 a.m. – 9:45 a.m. |
| Welcome: | 9:50 a.m. – 10:10 a.m. |
| (Opening Remarks) | |
| 2 nd Session: | 10:30 a.m. – 11:15 a.m. |
| Lunch/Exhibition: | 11:30 a.m. – 12:45 p.m. |
| 3 rd Session: | 1:00 p.m. – 1:45 p.m. |
| 4 th Session: | 2:00 p.m. – 2:45 p.m. |
| NCJTA Meeting: | 3:00 p.m. – 3:40 p.m. |
| FLANC Reception: | 3:45 p.m. – 4:30 p.m. |

- NCJTA会員の皆様はNCJTAのほうに前もって\$20お支払いの上、事前登録していただきますと、FLANCにも終日参加できるようになりました(FLANCのメンバーか否かは問いません)。本Newsletterに申込書を添付しますので、ご記入の上\$20を添えて会計の斉藤先生までお送りください(小切手の支払先名はFLANCではなく、NCJTAをお願いします)。斉藤先生のご住所は以下の通りです。
 Ms. Mayumi Saito 2105 Saratoga Place, Davis CA 95616
- FLANCでは、サンマテオのオデッセイ中学の校長先生であるMichael Smuin先生とNCJTAの役員でもある今瀬博先生が“Why Odyssey School Teaches Japanese?: Introducing Japanese Curriculum at Odyssey”と題して発表されます。中・高での日本語教育にご興味をお持ちの方は是非ご出席ください。
- また、従来通り、NCJTA秋の例会は、午後3時からFLANCの午後のセッションの1つとして開催予定ですが、ネットワーキングの場としてご活用いただけるよう極力、配慮いたしますので、こちらにもどうかふるってご出席ください。NCJTAの例会ではUC Berkeleyの神原若枝先生が読解に関してお話させていただきますが、中級レベルでの読解教授法のご参考にさせていただきたく存じます。どうか御期待ください。

第35回日本語弁論大会のお知らせ

北加日米会 (Japanese American Association of Northern California: 略称JAANC) 及び在サンフランシスコ日本国総領事館主催による第35回日本語弁論大会が、11月2日(日)に同総領事館広報文化センター (Japan Information Center, Consulate General of Japan, 50 Fremont Street, Suite 2200, San Francisco, CA 94105) において開催されます。昨年度からNCJTAも後援団体として参加していますが、今年も昨年同様、午前は中高校生の弁論大会、午後は大学・成人の弁論大会を開催する予定です。

中高生の参加資格は、①中高生で、②6歳以後1年以上日本に継続滞在経験のない人が対象です。入賞者には、賞状及び賞品が授与されます。なお、過去に1等賞に入賞した方には出場資格がありません。日本語を日常話している家庭からの参加者とそれ以外の参加者の2グループに分け、それぞれのグループでコンテストを行う予定です。大会では各学校の推薦(学校の推薦枠は代表1名、補欠候補1名)による参加申し込みを受け付けます。中高生参加・出場申込書ご希望の方は、在サンフランシスコ日本国総領事館広報文化センター高橋さんにご連絡ください ☎(415) 356-2461, education@cgsjf.org (中高生出場申込書は同センターで受け付けます。)

大学・成人弁論大会の参加・出場資格は、①18歳以上の米国市民権及び永住権保持者で、②大学生、または18歳以上、③6歳以後、2年以上日本に継続滞在経験のない方

が対象です。なお、過去に1等賞に入賞した方には出場資格がありません。1位から5位の入賞者には賞金が、また上位3位入賞者にはトロフィーが授与されます。また、参加者の中から抽選で1名に日本航空より日本往復切符が授与されます。大学・成人部の参加・出場申込書ご希望の方は、北加日米会事務所☎(415) 921-1782 ファックス(415) 931-1826、西沢ジョンさん☎(925) 212-1826、または八木邦子さん☎(209) 473-3488までご連絡ください。

大学・成人及び中高生参加者の申し込み締め切り日は共に10月10日(金)午後5時必着です。日本語教育に携わっていらっしゃる先生方、継承言語としての日本語に興味をお持ちの皆さん、日本語弁論大会に日本語学習者がふるって参加されるよう御推薦ください。
(文責：南 雅彦)

日本語能力試験 (Japanese Language Proficiency Test) のお知らせ

国際交流基金 (Japan Foundation) では、日本語学習者を対象に日本語能力試験 (Japanese Language Proficiency Test) を1984年より日本国内だけでなく国外においても実施してきました。日本語能力試験は、習得した日本語の能力を客観的に測定し、これを公的に認定する制度です。西海岸では以前はロサンゼルスのみで日本語能力試験を受験しなければなりませんでした。5年前からサンフランシスコ・ベイエリアでも受験できるようになりました (現在、アーカンソー、アトランタ、シカゴ、ホノルル、ロサンゼルス、ニューヨーク、サンフランシスコ、ワシントンDCの9試験会場です)。ベイエリアでは、12月7日(日)にサンフランシスコ州立大学 (SFSU) で今年度も引き続き日本語能力試験が実施されます。試験は、最も難易度の高いレベル1から最も難易度の低いレベル4まで4つのレベルに別れていますので、自分の能力に適したレベルを受験することができます。各レベルとも、「文字・語彙」「聴解」「読解・文法」の3つのセクションから成り立っています。受験費用はレベル1と2が50ドル、レベル3と4が40ドルとなっています。受験手続は、オンラインでも、郵送でも可能ですが、郵送の場合は所定の願書に必要事項を記入し、ロサンゼルスのJapan Foundation, Language Centerまで申し込んでください。なお、オンラインでも郵送でも詳細は <http://www.jflalc.org/?act=tpt&id=8>, <http://www.jflalc.org/?act=tpt&id=23> をごらんいただくか、電話 (213) 621-2267 (月-金 9:30-5:30)、もしくはE-mail: noryoku@jflalc.org までご連絡ください。本年度は既に締め切りましたが、受験願書の受付期間は8月1日から9月26日までとなっていました。日本語教育に携わっていらっしゃる先生方、継承言語としての日本語に興味をお持ちの皆さん、日本語能力試験に日本語学習者がふるって参加されるよう御推薦ください。また、サンフランシスコは2番目もしくは3番目の規模で、昨年は約540名が受験しました。このように年々大規模になりますと、

NCJTAの先生方に試験監督をお願いするかと存じますが、その際はよろしくご願ひ申し上げます。

(サンフランシスコ州立大学 南 雅彦)

2009年度JETプログラム参加者募集のお知らせ

2009年度JETプログラム参加者募集を開始しました。本プログラムは米国人の青年を対象とする国際交流促進プログラムです。詳しくは、下記の在米国日本大使館のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.us.emb-japan.go.jp/JETProgram/homepage.html>

JET プログラムは、「語学指導等を行う外国青年招致事業 (The Japan Exchange and Teaching Program)」の略称であり、米国を始めとする諸外国の青年達に日本で実際に仕事をしながら生活して貰うことにより、地域レベルでの国際交流の進展を図ることを目的としています。同プログラムは、地方公共団体が、総務省、外務省、文部科学省及び財団法人自治体国際化協会 (CLAIR) の協力の下に実施しています。

参加者の職種は、地域の小学校・中学校や高等学校で語学指導に従事する外国語指導助手、地方公共団体に国際交流活動に従事する国際交流員、及び地域においてスポーツを通じた国際交流活動に従事するスポーツ国際交流員があります。何れも日本各地の地方公共団体等に配置され、参加者の活動の舞台は大都市から地方の中小都市や農村漁村等文字通り全国津々浦々に及んでいます。

2007年度には、米国から2,800名以上の参加者が渡日、本年はサンフランシスコから94名が日本へ出発しました。これまで日本から帰国した多くのJETプログラム参加者が、ビジネス、教育、国際関係等さまざまな分野に於いて、日米の懸け橋となって活躍しています。

日本に関心のある知人、御友人、日本語を学習している学生さん等には是非JETプログラムのことを教えてあげてください。

連絡先：Mr. Peter Weber

Japan Information Center, Consulate General of Japan, San Francisco, Email: jet@cgjsof.org,
TEL: 415-356-2462



新メンバーの紹介欄

今川香代子先生のご紹介

1) お名前を教えてください。

今川香代子です。

2) 教えている学校名、町を教えてください。

バークレーにある、カリフォルニア大学バークレー校 (University of California, Berkeley) で教えています。

3) 日本語教師はいつから？

大学院生時代に教えていた土曜学校も入ると、日本語教師として教え始めたのは2003年からです。実は、大学時代に留学していたUC Davisで、半年間日本語のクラスのアシスタントをさせていただいたこともあります。この経験がきっかけで日本語教師になりたいと思いました。

4) ご趣味は？

ここ一年はヨガにはまっていて、今も週に3回はヨガスタジオに通っています。いいストレス解消法です。

5) 日本の出身地は？

福岡県の博多です。

6) アメリカに来てから何年ですか？

いつの間にか5年半経ちました。

7) 仕事について、なにか一言お願いします。

今学期のクラスに、以前高校で教えていた時の生徒が、入って来て、久しぶりの再会と、彼女の成長ぶりにびっくりしました。何よりも、今までずっと日本語を勉強し続けてくれていたのがうれしかったです。今、大学で関わっている学生が、何らかの形で今後も日本語や、日本に興味を持ち続けてくれたらこんなにうれしいことはないと思います。いつかそんな影響が与えられる先生になれるように、これからも初心を忘れずがんばっていきたいと思います。

8) 会員のみなさんへのメッセージがあればどうぞ。

教師としての経験も浅く未熟者ですので、小、中、高、大学の現場でご活躍されている先生方から、色々と学ばせていただいきたいと思っています。よろしくお願いたします。

大黒恭得先生のご紹介

1) お名前を教えてください。

大黒恭得（おおぐろやすえ）です。

2) 教えている学校名、町を教えてください。

University of California, Berkeleyです。Berkeley, Californiaです。

3) 日本語教師はいつから？

1997年からです。

4) ご趣味は？

空手と旅行です。

5) 日本の出身地は？

大阪府です。

6) アメリカに来てから何年ですか？

20年になります。

7) 仕事について、なにか一言お願いします。

パークレーに採用していただいたばかりで、まだ右も左も分からない状態です。皆さんに助けていただいているのですが、まだまだ毎日大失敗の連続でご迷惑をかけています。でも、仕事はとても楽しく、毎日出勤するのが楽しみです。

8) 会員のみなさんへのメッセージがあればどうぞ。

カリフォルニアはまだ2年で、まだまだ新米気分が抜けません。どうかよろしくご教示のほどお願い致します。

江藤祐子さんのご紹介

1) お名前を教えてください。

江藤祐子です。

2) お仕事の内容を教えてください。

在サンフランシスコ日本国総領事館にて、専門調査員として勤務しています。日本語教育関連を含め、教育事業を担当しています。

3) 今のお仕事はいつからですか？

2008年7月からです。

4) ご趣味は？

専門がアートマネジメントで、特に子ども向け美術館教育を研究してきましたので、美術館巡りが好きです。ほかには旅行、ランニングなどです。

5) 日本の出身地は？

出身は東京ですが、ここ2年ほどは、石川県金沢市や、神奈川県横浜市に住んでいました。

6) アメリカに来てから何年ですか？

7月に赴任してきたばかりです。それまでに旅行でアメリカを訪れたことはありましたが、西海岸は今回が初めてです。

7) 仕事について、なにか一言お願いします。

当地の教育事情についてまだまだ勉強中ですが、教育という分野を通じて、当地と日本との交流の一端に携わること意義を感じています。その国の歴史や文化を知るのに、言語の学習が果たす役割は非常に大きいと考えています。

8) 会員のみなさんへのメッセージがあればどうぞ。

みなさんが教育現場で直面されている事柄について、是非いろいろお話をお伺いしたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

編集後記

新年度、秋学期も始まり、会員の皆様、諸先生方には、お忙しい毎日をお越しの事と存じます。今回のニュースレターも日本語教育に関する話題を充実させました。今後とも、会員の皆様からのご投稿をスタッフ一同心からお待ち申し上げております。どうか、お気軽にご意見、ご質問、ご感想等を、南、神原、高坂、今瀬までお送りください。

南：mminami@sfsu.edu

神原：wkambara@berkeley.edu

高坂：seikokosaka@sbcglobal.net

今瀬：hiroimase@yahoo.co.jp



北加日本語教師会連絡先

NCJTA

Officers

<事務局>

<http://www.ncjta.org/>
NCJTA. c/o Masahiko Minami
Department of Foreign Languages
サンフランシスコ州立大学
San Francisco State University
1600 Holloway Avenue
San Francisco, CA 94132
(415) 338-7451
<http://online.sfsu.edu/~mminami/>

<役員>

会長/CEO : Masahiko Minami 南雅彦
(同上)

副会長 (書記兼任) : Kazue Masuyama 増山和恵
University of California, Sacramento
E-mail: masuyama@saclink.csus.edu

書記 : 空席 (欠員)

会計 : Mayumi Saito 斎藤真由美
University of California, Davis
E-mail: msaito@ucdavis.edu

ニュースレター編集委員 :
Seiko Kosaka 高坂聖子
City College of San Francisco
E-mail: seikokosaka@sbcglobal.net

<各レベル代表>

小学校 :

Taeko Morioka 森岡妙子
Rosa Parks JBBP Elementary School
E-mail: Taeko3568@aol.com

Yu Goji 郷司裕

Clarendon Elementary School
E-mail: taizoji@hotmail.com

中学校 :

Hiroshi Imase 今瀬博
Odyssey School
E-mail: hiroimase@yahoo.co.jp

高校代表/フランク連絡員兼任 :

Atsuko Morse モールス厚子
The College Preparatory School
E-mail: ahmorse@aol.com

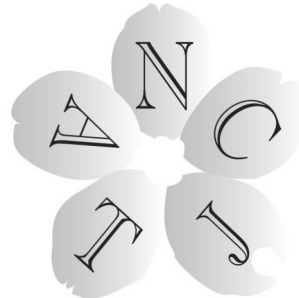
学園代表 : 空席 (欠員)

コミュニティーカレッジ代表 :

Tazumi Scearce シアース多都美
469 Tovar Drive, San Jose, CA 95123
E-mail: tazumi@comcast.net

大学代表 :

Wakae Kambara 神原若枝
University of California, Berkeley
E-mail: wkambara@berkeley.edu



Northern California Japanese Teachers' Association

Northern California Japanese Teachers Association

GROUP REGISTRATION FORM for FLANC CONFERENCE

Nov. 8, 2008 at University of California at Berkeley.
See FLANC website for details, www.fla-nc.org

For Nov. 7 FLANC workshops at Berkeley City College, attendees must register individually and directly with FLANC, see website for details.

Please complete, make check payable to NCJTA and mail to:

Mayumi Saito
2105 Saratoga Place, Davis CA 95616

DEADLINE: OCTOBER 22, 2008

REGISTRATION FORM-PLEASE PRINT

Name: _____

Email address: _____

School Position: _____

School: _____

LUNCH? Circle YES or NO

YES? Circle CHICKEN or VEGETARIAN

Conference GROUP fee-----\$20.00

Box Lunch-----\$15.00

Amount Paid: _____

Check # _____

Check in with your NCJTA representative on conference day at the registration table in order to receive your conference packet. Thank you.